



LA LETTRE DU SENEGAL



Bonjour ! 8月と9月まとめの活動報告です

みなさんこんにちは！青年海外協力隊2023年度4次隊、青少年活動・松岡愛実です。セネガル共和国のバンベイ（Bambey）という町の視学官事務所（教育委員会にあたる組織）に所属し、小学校図書室を拠点に子どもたちへの読書推進や図書室の運営を主な活動として行っていく予定です。

8月はティエス（Thies）で行われた教員養成校での模擬授業への参加や、JICAセネガル事務所に隊員全員が集合する中間報告会と総会に出席しました。ひとりで初めて任地外に出たので不安だらけでしたが、道中でたくさん助けられながら無事移動できました。9月は体調を崩すことが多い1ヶ月でした。ここでの生活に慣れてきたとはいえ、まだまだストレスや不安を感じていたのだと思います。少し停滞していた9月ではありましたが、夏休み期間中に進めていた大掃除も終わり、蔵書点検もなんとか完了しました！近隣の中学校から40冊ほど本を譲ってもらったのですが、なかにはアート作品のような虫食いの大きな穴がある本もあったりしました。過ぎてみればあっという間の8月・9月も、雨や虫や断水など、日々の生活に葛藤しながら過ごしていました。そんな2ヶ月の振り返りです。

①冠水する道路、頭に荷物を乗せて歩くマダム、アフリカで暮らしていることを実感する一枚 ②雨季の終わりに出始めた大量のスイカ ③雨季のバンベイは緑が生い茂る ④ダカールのセットプラス（7人乗りタクシー）乗り場。7人揃うまで出発しない。この日は1時間待って出発 ⑤ティエスにある工芸村のガラス絵職人のアトリエ ⑥セネ飯で今一番好きなmbakhalou（バハル）はホルモンのリゾットのような米料理 ⑦ダカール上京時に隊員と行ったジェラート屋。デザートに多国籍料理、ダカールには何でもある



松岡愛実（セネガル名はファトゥ・ンジャイ）。高知県出身。青年海外協力隊2023年度4次隊員。青少年活動で2024年5月からセネガル派遣中。首都ダカールから東に約130km離れた場所に位置する「Bambey（バンベイ）」の小学校図書室を拠点に、子どもたちの読書推進と図書室の運営維持を主な活動として取り組む予定。食べ物を前にすると目が輝く。セネガル料理（通称セネ飯）がとにかく大好きな29歳。



教育分科会の活動@ティエス

隊員間での情報共有のために設けられた教育分科会というグループに所属し、8月には分科会主催の教員養成校での模擬授業講座に参加してきました。私は青少年活動という職種で協力隊に参加しているのですが、教育分科会には小学校教育の隊員が多く、今回の模擬授業では養成校の生徒たち同様に、私自身も学ぶことがたくさんありました。教員の卵である生徒たちが興味津々で講義を受けているのが印象的でした。つたないフランス語とウォロフ語で先輩隊員の講座のお手伝いをさせてもらい、少し自信に繋がった気がします。

「マンガノース！」な日

ティエスや首都には多国籍レストランや大きなスーパーがあり、同期と和食や中華を堪能したり、任地では手に入らない食材を調達できました。セネガルでは「マンガノース（贅沢してるか?）」と挨拶の際に聞くのですが、この日ばかりは「マンガノース（贅沢してるよ）」な、リフレッシュデーとなりました。



中間報告会@ダカール

報告会では着任して1年経った隊員と、活動を終え8月に帰国する隊員が活動報告をしました。隊員総会は教育や医療分野からなる分科会、隊員活動そのものを円滑に進めるための委員会、そして有志で活動しているクラブの3種があり、隊員主体で開催されました。8月には新たに新隊員が着任し、セネガル隊員は34人となりました！任地から首都にひとりで上京するのはドキドキで疲労困憊でしたが、隊員に会えてホッとしたり、隊員の生活の知恵をたくさん吸収しました。1ヶ月半ぶりの首都ダカールは大会場でした。

8月と9月の活動報告

Activités en août et septembre.



図書室の大掃除、完了

同僚と一緒に進めてきた図書室の大掃除も8月について終わりを迎えました！備品や不用品で溢れていたのをまずは断捨離から取り掛かりました。使える物と使えない物の区別が、私だけでは判断できなかったのですが、同僚に確認しながらひとつずつ作業を進めていきました。物置ではなく図書室として永続的に機能させるためには「整理整頓」は欠かせない取り組みだということを実感しました。整頓された状態が保てるように、工夫が必要です。

BEFORE



AFTER

蔵書点検のようす

9月に入ってから、本の状態を一冊ずつ確認しながらExcelでリスト化し、写真も添付した蔵書リストを作成しました。蔵書数は現在307冊です。ここにある本は図書室ができた当初に購入した分と、近隣の中学校から寄贈されたもので構成されていますが、分厚い小説が多く、低学年向けの絵本などの易しい読み物が少ない状況です。読書のハードルを下げるためにも、開いて楽しいと思える本を置くことも読書推進のひとつだと考えています。今後の活動のひとつとしては、フランス語の絵本の寄付を募ることも視野に入れていきます。



今月のウォロフ語

-Noo tudd? (ノートゥドゥ?) / 名前は何ですか?

-Man, ○○ laa tudd. (マン、○○ ラートゥドゥ) / 私の名前は○○です。